

# へびさんのながさをくらべるほうほうを かんがえよう

単 元	おおきさくらべ(1)	対象学年	1 年
ね ら い	身の回りのものを使って、へびの長さを基準量のいくつ分で表して比べることができる。		

## 1 準備するもの

教師：粘土，A3用紙，ワークシート

児童：粘土，ぬれ雑巾

## 2 学習のしかた

(1) 使用する粘土の量は全員同じ量にし，時間を測ってできるだけ長いへびを作る。「より長いものを作ろう」という意欲を高めるために，目安になる粘土のへびを黒板に提示する。直接比較ができないことに気付かせるために，提示するへびは，たるんでしまったり切れてしまったりするような細長いへびを作る。



【ねんどでへびをつくろう】

(2) 自分のへびの長さを身の回りのもので表し，比べ方を考える。基準量になるものが複数のものにならないように，一人ひとつ決めて，□のいくつ分で表す。調べた結果をワークシートに記入する。

(例：鉛筆の4ほん分，はさみの2丁分)



【身の回りのものでへびの長さを表す】

- (3) へびの長さの比べ方を発表する。自分が考えた基準量を使って、実際に黒板のへびと長さ比べをする。自分が作ったへびと黒板に提示されているへびのどちらの方が長いか、□のいくつ分を使って理由が言えるようにする。
- (4) 自由に友達へのびの長さを測る活動を行い、調べた結果をワークシートにまとめ、長さ比べをする。

	くらべるもの	の	いくつぶん
(れい)	えんぴつ	の	4ほんぶん
じぶん		の	
		の	
		の	
		の	

【ワークシート例】

### 3 学習上の留意点

- ・直接比較することができない場合を考える活動にするために、へびを動かそうとすると形が崩れてしまう「へびが動かせない」状況をつくる必要がある。
- ・へびが短いと動かすことができってしまうので、「より長いものを作ろう」という意欲を高めるために、目安になる粘土のへびを提示する。
- ・自分の身の回りのものを基準量として考えるが、例えば、連絡バッグや筆箱など基準量にするものが大きいものだと、比較するときうまく比較できない場合があるので、ある程度、基準量にするものを絞る必要がある。

### 4 学習の効果

- ・子どもたちが好きな粘土を取り入れ、長さを測るためのへびを自分自身で作るようにしたことで、どの子も意欲的に学習に取り組むことができる。
- ・自分が考えた基準量で、友達のへびを測って比べる場面を設定することで、自分自身で問題解決しているという達成感を得られ、友達と楽しく学習することができる。